

令和 2 年度 施策評価表

第 5 章『魅力・元気・文化を誇れるまち』

まちづくりの目標	農業、商業、工業、観光業などの各産業の活性化を図るとともに、これらが自然環境や文化、芸術などと複合的につながり、魅力あふれるまちづくりをめざします。
分野別計画・指針	所沢市文化芸術振興ビジョン、所沢市産業振興ビジョン

第1節	産業基盤
関係所属	産業振興課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「産業基盤」 所沢市は企業の立地や新ビジネスの創出が盛んに行われている	280	13.7%	132	6.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	総生産額	億円	-	8,275	8,864(H29)	○	8,681

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-1-1	新たな産業用地等の創出	企業立地支援奨励金交付件数	件	3	4	3	×	6
5-1-2	企業誘致の推進	都市型産業等育成補助金交付件数	件	-	5	0	×	10
5-1-3	起業・創業の促進	創業支援事業の支援対象者数	人	166	313	220	×	313
5-1-4	新たなビジネスやイノベーションの創出	農商工連携による新たな商品やサービス等の創出件数	件	1	3	4	○	3

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**
 ○企業誘致活動として「企業誘致セミナーin大阪」へ出展し、関西圏の企業に対し、所沢市のPR活動を行った。
 ○都市型産業等育成補助金のPRとして、埼玉県内、及び東京都(西武園沿線)の企業へ計約1,400社に対しDMを発送しPRを行った。
 ○埼玉県産業振興公社(創業・ベンチャー支援センター埼玉)と連携し、創業相談窓口と創業セミナーを新たに設置し、特定創業支援の機会を増やした。
 ○西武学園との連携で、産学官連携による勉強会の開催を行い、学園祭への市内事業者出店等、新たな展開が実現できた。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**
 ○企業立地支援奨励金については、条例改正により申請年度の翌々年度の交付となったことで令和元年度の交付件数が目標値に届かなかったものである。
 ただし、企業立地支援奨励金の新たな認定者として、3社からの申請が行われ、今後、交付件数も増加を見込むものである。
 ○都市型産業等育成補助金については、制度発足の平成30年度に、立地相談はあったものの申請まで至る事業者が不在だったことで、令和元年度の交付件数が目標値に届かなかったものである。ただし、令和元年度中に交付対象者を2者選定し、令和2年度以降に補助金の交付を予定している。
 ○創業支援計画において高い目標を設定し、商工会議所や県産業振興公社と連携のもと支援策を実施したが、参加者が見込みよりも少なかった。

今後の方向性

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**
 ○新たな産業用地等の創出にあたっては、三ヶ島工業団周辺地区の都市計画事業の推進に向け、街づくり計画部と連携しながら事務を遂行するものである。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**
 ○企業誘致の推進にあたっては、三ヶ島工業団周辺地区への立地希望企業の情報収集に努めながら、更なる誘致活動を展開するものである。
 ○都市型産業等育成補助金については、コロナ後のオフィス賃貸のあり方の動向を注視しながら、都心からの移転を希望する企業等の情報収集に努める。

SDGsへの貢献			
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に
8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	令和2年7月22日	記入者職氏名	産業経済部次長 鈴木 明彦

第2節	産業競争力・成長力	
関係所属	産業振興課、農業振興課	

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「産業競争力・成長力」 所沢市は商業・工業・農業などの地元産業が活発である	332	16.3%	121	5.9%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	製造品出荷額等	億円	1,628	1,730	1,830(H29)	○	1,980

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-2-1	地域を牽引する事業者等への支援	地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業により開発された新製品件数	件	3	3	3	○	5
5-2-2	商工業者等の経営基盤の強化	(仮称)地域の中核となる事業者等応援事業による派遣件数	件	-	5	5	○	15
5-2-3	農業の生産基盤・経営基盤の強化	認定農業者数(総数)	人	161	170	171	○	170

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り

- 補助金による新製品開発をきっかけに、事業者同士の連携や所沢ブランド特産品の認定など、地域への波及効果があった。
- 県産業振興公社や事業引き継ぎセンターなどと連携を図り、市内企業が専門相談を行いやすいような環境づくりを行った。
- 社会経済情勢の変化などを踏まえ、農業振興地域内の施策を計画的に進めるための「所沢市農業振興地域整備計画」の改定を進めた。
- 農業をけん引していく認定農業者に対しては、「認定農業者等経営改善推進事業」などにより農業経営改善の支援を行った。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- ニッチトップを目指せるようなオンリーワン商品の開発を支援する。
- 様々な分野の専門的経営相談が可能な機関との連携を広げ、経営相談プラットフォームを構築していく。
- 埼玉県との協議を進め「所沢市農業振興地域整備計画」の改定を行う。
- 農用地の有効利用や生産性の向上を図るため、通称「中富農道」の管理及び全面開通に向けて、築造工事を実施する。
- 農業をけん引していく認定農業者に対しては、農業経営改善に向けた支援を行う。

SDGsへの貢献		
レ 1	貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
レ 2	飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
レ 8	働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9	産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	令和2年7月22日	記入者職氏名	産業経済部次長 鈴木 明彦 産業経済部農業振興担当参事 青木 一圭
-----	-----------	--------	--------------------------------------

第3節	観光・にぎわい	
関係所属	商業観光課、農業振興課	

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「観光・にぎわい」 所沢市らしい誇れる観光スポットや賑わいのエリアがある	470	23.0%	276	13.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	観光入込客数	万人	552	570	609(H30)	○	780

事業目標の達成状況

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化	新たな拠点施設への来場者数	万人	-	-	-	-	140
5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成	他自治体と連携しイベント等へ参加した回数	回	20	21	27	○	26
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進	体験農場利用者ステップアップ事業への参加者数	人	238	300	65	×	300
5-3-4 観光客誘致の強化	Facebook等のSNSの”いいね”数	人	5,869	7,700	8,642	○	12,200

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 - 広域連携を推進し、広く所沢市の観光資源をアピールするため、狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会及び西武線沿線サミットの構成メンバーとして広域観光連携に取り組んだ。
 - フォール大佐を団長とするフランス航空教育団が来日してから100周年を迎えたことを記念して、所沢航空記念公園を会場に式典が開催し、市内外へ「航空発祥の地 所沢」をPRするとともに、フランスへ訪問するなど新たな交流のきっかけを作ることができた。
 - 市内事業者を対象に、インバウンド対応に係る意見交換会やセミナーを開催し、訪日外国人観光客に対する受け入れ環境について情報提供・情報共有を行った。
 - 観光・健康・環境(みどり保全)に関わる横断的な取り組みとして、クアオルト健康ウォーキングを実施した。
 - 都市農業の安定的な継続に向けた施策の方向性を示す「都市農業振興基本計画」の策定を進めた。
 - 体験農場の運営や収穫体験事業などを通じて生産者と消費者の相互理解に努めた。
 - 各種事業の実施や農業情報誌の刷新を図り、市内で生産された安全・安心な農産物のPR、イメージアップを図った。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 - 新型コロナウイルスの影響により3月の講習会を中止したこと、各体験農場で実施をすることから天候による影響や貸付期間の2年目であることから利用者ニーズの変化が考えられる。

今後の方向性

- ◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 - withコロナ期・afterコロナ期における「新たな生活様式」に対応し、安全を確保した新たな観光振興事業を検討する必要がある。
 - 広域連携を推進し、広く所沢市の観光資源をアピールするため、近隣市町村との連携を深めていく。
 - ところざわサクラタウンとの連携を強化し、所沢市のブランド化を一層推進する。
 - 入間市・狭山市をはじめとする10市町と連携し、狭山茶の特徴である「自園・自製・自販」による「6次産業システム」を農業遺産への認定をめざすことで、狭山茶産地の認知度を高め、一層のブランド化を図る。
 - 様々な機会を通じて、生産者と消費者の相互理解を図り、「農のあるまちづくり」をめざす。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 - 体験農場は、利用者及び農場賃借の更新時期を迎えることから、場所や区画増を図りより多くの方々に利用を促すとともに、農業の楽しさを体験してもらいたいことから、わかりやすく、参加しやすい講習会を開催していく。

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	
評価日	令和2年7月22日
記入者職氏名	産業経済部次長 鈴木 明彦 産業経済部農業振興担当参事 青木 一圭

第4節	産業人材・雇用
関係所属	産業振興課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「産業人材・雇用」 所沢市の農業の担い手育成や就労支援は充実している	126	6.2%	127	6.2%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	市内事業所従業者数	人	114,497	114,900	114,497(H29)	×	115,900

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-4-1	将来の産業を担う人材の確保と育成	市ホームページ等で紹介した事業者数(累計)	者	-	20	0	×	50
5-4-2	雇用の確保や労働環境の改善	就職応援フェア参加者数	人	105	100	103	○	80

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 ○市内事業者へのアンケートを基に掲載情報を整理し、掲載レイアウトを設計した。(新型コロナウイルス感染症の影響により募集は見送り)
 ○市内高校生の製造業事業者見学ツアーを企画し、対象高校との調整を行った。(新型コロナウイルス感染症の影響により実施は見送り)
 ○「セカンドキャリアセンター所沢事業」や「就労チャレンジ支援事業」など、若者・女性・シニア等の就労支援事業に取り組み、就職者の増加につなげた。
 ○中小企業で働く従業員と事業主の福祉の向上を図るため、所沢市中小企業勤労者福祉サービスセンターの円滑な運営を支援した。
 ○ラーク所沢の利用者を増やすことにより、勤労者福祉等の向上につなげた。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 ○雇用情勢は近年改善傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、解雇や雇止め、求人見送りなどにより、急激に悪化したため。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 ○国・県と連携しながら、多種多様な世代に合わせた就労支援を実施していく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 ○雇用情勢の悪化を受け、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意しながら、各種就職支援セミナーや企業面接会等により、求職者及び事業者への支援を実施する。

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	令和2年7月22日	記入者職氏名	産業経済部次長 鈴木 明彦
-----	-----------	--------	---------------

第5節	国際化・多文化共生								
関係所属	文化芸術振興課								
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「国際化・多文化共生」 所沢市は外国人市民にも暮らしやすいまちだ			270	13.2%	75	3.7%			
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	国際化・多文化共生に関する施策の満足度		%	-	35	13.2	×	40	
事業目標の達成状況									
基本方針		事業目標		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-5-1	国際交流活動の推進	姉妹都市交流事業に参加した市民の人数		人	150	155	72	×	180
5-5-2	外国人市民が暮らしやすい環境づくり	多言語化した行政資料の種類(「やさしい日本語」含む)		数	5	15	25	○	40
5-5-3	多文化共生の意識を育む環境づくり	国際交流フォーラムの参加者数		人	550	560	-	×	610
節の基本方針への取り組み状況									
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○外国人市民がより安心・安全に暮らしていける取組の一つとして、危機管理課と連携し、「外国人市民向け防災講座」を実施した。</p> <p>○外国人市民と市民、及び外国人市民同士の交流・情報交換の場を提供するため、第25回所沢市国際交流フォーラムの開催を支援した。(新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、イベントのみを実施し、本イベントは中止となった。)</p> <p>○姉妹都市交流については、米国・ディケイター市への高校生6名の派遣、中国・常州市からの「常州市婦人代表团」の受入を実施した。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、支援の要請のあった中国・常州市に対して、備蓄用マスク5万枚の支援を行った。(1か月後には常州市から本市宛にマスク5万枚の寄贈があった。)</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○評価指標の未達成の一因としては、国際化・多文化共生に関する施策を着実に進めているものの、市民への周知が十分ではなかったことが挙げられる。今後は、市の広報媒体(HP、ほっとメール等)を活用するなどし、周知の強化を図る。</p> <p>○基本方針5-5-1「国際交流活動の推進」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け一部の交流事業を見合わせたことなどから、事業目標は未達成となったが、予定どおり交流事業を実施していれば、直近の参加者数の推移や事業の内容から、目標は達成できたものと推察している。</p> <p>○基本方針5-5-3「多文化共生の意識を育む環境づくり」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け国際交流フォーラムの開催を見合わせたことから、事業目標は未達成となったが、例年どおり実施した場合、直近の参加者数の推移やイベント周知の手応えから、目標は達成できたものと推察している。</p>									
今後の方向性									
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○国籍に関係なく誰もが住みやすいまちにするため、外国籍市民の方々のニーズを的確に把握し、タイムリーに施策に反映していく。また、日本人市民の方々の国際交流・多文化共生への理解度を深めるため、効果的な周知を図っていく。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○基本方針5-5-1「国際交流活動の推進」については、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが依然立たないままであるが、市民の安全・安心を確保しながら国際交流活動の推進に努めていく。</p> <p>○基本方針5-5-3「多文化共生の意識を育む環境づくり」については、市民の安全・安心を確保するための工夫を行いながら、国際交流フォーラムの開催や意識啓発の研修の実施に向けて準備を進めていく。</p>									
SDGsへの貢献									
1	貧困をなくそう	レ	10	人や国の不平等をなくそう					
2	飢餓をゼロに	レ	11	住み続けられるまちづくりを					
レ	3	すべての人に健康と福祉を		12	つくる責任	つかう責任			
4	質の高い教育をみんなに		13	気候変動に具体的な対策を					
5	ジェンダー平等を実現しよう		14	海の豊かさを守ろう					
6	安全な水とトイレを世界中に		15	陸の豊かさを守ろう					
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16	平和と公平をすべての人に					
8	働きがいも経済成長も		17	パートナーシップで目標を達成しよう					
9	産業と技術革新の基盤を作ろう								
評価日	令和2年7月22日	記入者職氏名	市民部文化芸術振興担当参事 吉田 謙治						

第6節	文化芸術・伝統文化
関係所属	文化芸術振興課、文化財保護課、生涯学習推進センター

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「文化芸術・伝統文化」 日常生活の中での芸術・文化に触れる機会に満足している	377	18.5%	189	9.3%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	文化芸術・伝統文化に関する施策の満足度	%	-	40	18.5	×	45

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-6-1	個性あふれる文化の創造	所沢市文化祭の延入場者数及び事業参加者数	人	17,927	8,000	9,651	○	21,000
5-6-2	文化財の保護・活用	文化財保護にかかる事業の参加者数	人	9,450	10,200	9,434	×	12,000
5-6-3	ふるさと研究の推進	ふるさと研究活動にかかる延利用者数	人	5,882	5,950	4,126	×	6,200
5-6-3	ふるさと研究の推進	郷土資料利用件数	件	389	400	1,650	○	450

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**

○「文化」と「航空発祥」の2つのテーマの下、新しい市民文化の創造を目指した春のイベントである「市民文化フェア」と、「音楽のあるまちづくり」の新たな核となる事業として平成29年にスタートした「空飛ぶ音楽祭」という2つの文化イベントを、市制施行70周年を迎える令和2年度当初の祝賀文化事業として同日に開催するため、その準備を進めた。(新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年4月の開催は中止となった。)

○市内において様々な芸術・文化活動を行う19の連盟で組織される所沢市文化団体連合会の最大の事業である「所沢市文化祭」は、例年、所沢市民文化センター等を会場に20以上の催しを開催しているが、前年度は所沢市民文化センターが改修工事に伴う休館であったため、それに替わる会場(所沢まちづくりセンターほか)での開催を支援した。

○所沢市民文化センターについて、指定管理者制度による管理運営を行った(指定管理者:公益財団法人所沢市文化振興事業団)。また、PFI手法を用いて実施する所沢市民文化センター改修事業について、令和元年12月末をもって予定通り工事が完了し、令和2年4月1日のリニューアルオープンに向けた準備も予定通り完了した。(新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年4月1日のリニューアルオープン記念式典は中止となった。)

○所沢駅東口市民ギャラリーについて、指定管理者制度による管理運営を行った(指定管理者:公益財団法人所沢市公共施設管理公社)。

○企画展を開催するにあたり、生涯学習推進センターを会場とする他所属の催し物と同日開催することで集客効果を図った。

○閲覧学習室を常時開放できる場所に変更したところ、利用者数が大幅増となった。しかし、利用者の中には資料を持ち込んでの勉強等のために利用している人も多く、必ずしも郷土資料の利用だけで件数が増加したとは言えない。

○「重松流祭ばやし」の市の無形民俗文化財指定50年記念イベントを2日間にわたり、所沢まちづくりセンター中央公民館ホールにおいて開催した。

○「滝の城跡保存管理計画・整備基本計画」に基づく第8次発掘調査として「馬出と本廊の間の内堀」の調査を実施し、発掘現地説明会を実施した。

○2件の文化財指定、民俗資料館(スタンプラリー含む)・小野家住宅・秋田家住宅の公開・ところざわ埋文まつりの開催などにより、文化財保護の普及啓発に努めた。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**

○評価指標が未達成の一因として、本市が実施し、又は開催を支援している文化芸術に関する催しについて、市民への周知が不十分であった可能性が考えられる。また、本市の文化の殿堂である所沢市民文化センターの休館により文化芸術に触れる機会が減少したことも一因と考えられる。

今後の方向性

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**

○文化の薫り高い施策を進めていく。所沢のアートの変遷を展望しようとする「ところざわアートの潮流」展を開催し、「空飛ぶ音楽祭」や「市民文化フェア」の開催に向けた準備を進める。また、引き続き市民の文化芸術活動の支援を行う。

○ふるさと研究資料の収集・整理・調査を進めるとともに、それらの成果を活用して、展示、講座、体験学習等の教育・普及事業を実施し、「ふるさと所沢」に対する市民の愛着を深める。

○生涯学習推進センター内に郷土資料等を収蔵するスペースを創出し、有効活用することで保存施設の整備を進める。

○幅広く将来に伝える文化財を指定するとともに、その適切な保存がなされるような様々な施策を実施していく。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**

○新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが依然立たないままであるが、市民の安全・安心を確保しながら多くの人が様々な文化芸術に関する催し等に触れ、その内容に満足するよう、広報活動を充実させてより多くの機会に触れられるようにするとともに、各催し等の内容も充実させていく。

○魅力ある展示や講座等を企画し、多くの方に参加していただけるよう工夫する。また、体験学習等、学校との連携事業を増やせるよう、PRIに努める。

○文化財に関する情報を発信しつつ、市民参加の機会を充実させていく。

SDGsへの貢献			
1	貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう	
2	飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを	
3	すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任	
レ 4	質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を	
5	ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう	
6	安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう	
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に	
8	働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
9	産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	令和2年7月22日	記入者職氏名	市民部文化芸術振興担当参事 吉田 謙治 教育総務部次長 市川 雅美 教育総務部文化財保護担当参事 肥沼 位昌